

令和４年度 第１回大阪市地方独立行政法人天王寺動物園評価委員会 議事要旨

■開催日時：令和４年７月５日（火）10:00～12:00

■開催場所：天王寺動物園 TENNOJI ZOO MUSEUM

■出席者：

（委員）	植田 麻衣子	植田公認会計士事務所 所長
	佐藤 哲也	神戸どうぶつ王国 園長
	佐渡友 陽一	帝京科学大学生命環境学部 講師
	高瀬 孝司	オフィスＴ 代表（委員長）
	豊島 ひろ江	中本総合法律事務所 弁護士
	原 久美子	公益社団法人日本動物園水族館協会 専務理事

（大阪市）	下田 健司	公園緑化部長
	木下 吉樹	公園緑化部調整課長
	横山 妹子	公園緑化部調整課（動物園支援担当）課長代理
	浦野 路与	公園緑化部調整課（動物園支援担当）係長

外２名

（法人）計７名

【議事要旨】

１ 開会

２ 委員長の選出・職務代理者の指名について

- ・ 委員長：高瀬委員
- ・ 職務代理者：佐藤委員

３ 地方独立行政法人天王寺動物園の令和３年度業務実績評価について

法人自己評価について法人より説明

<意見>

- ・ マニュアルや方針を策定したことによって、直営時よりも組織的な動きができるようになっていいる。獣舎整備について、コスト管理を今後も意識していただきたい。（植田委員）
- ・ 柔軟な人材確保が独法化の一番のメリットであると感じる。飼育員の採用によって、職員の若返りができ、職員の年齢のバランスがよくなっている。これまでの天王寺動物園での知識や技術を引き継いでいただきたい。（佐藤委員）
- ・ 当初の制度設計がうまくスタートした印象を受けた。まだ成果が出てきていない部分もこれから着実に成果が出ることを期待する。その際、法人や個人の努力が上手く引き出されるようなインセンティブの仕組みづくりをしていただきたい。（佐渡友委員）

- ・ 法人職員がやりがいをもって仕事ができていることが大切である。（原委員）
- ・ 法人化後の新たな取組みが成果として表れているのには、新規職員が増えたことも影響していると思う。引き続き、人材確保について力をいれていっていただきたい。（豊島委員）

資料１・２をもとに市評価について事務局より説明

<意見>

- ・ ＨＰアクセス数の変動には様々な要因があり検証が難しいため、広報への取組みについての評価は外的要因よりも発信件数や方法等を重視した方がよい。（植田委員、佐藤委員）
- ・ ハズバンダリートレーニングに取組む対象動物種や職員が増加していることは評価したい。今後も継続して頑張ってもらいたい。（佐藤委員、佐渡友委員）
- ・ １年目でクラウドファンディングを実施できたことを評価したい。（豊島委員）
- ・ ホスピタリティに関する研修は、ぜひ法人職員だけでなく委託業者にも継続して実施していただきたい。（高瀬委員）
- ・ 予算時の入園者数や入園料収入にコロナを見込んでいたのであれば、別途適正数値を設定しなくてもよい。想定よりもコロナによる影響が大きく、入園者数が減ったとしても仕方がないと思う。（植田委員）
- ・ 法人と市で評価軸が異なる項目については、今後はすり合わせにより目指すイメージを共通化していくことが重要である。（豊島委員）
- ・ コロナ影響等のように、特異な事情がある場合は「評価できない」という項目があってもよい。（高瀬委員）
- ・ 今後の評価にあたって、何を頑張っただけでなく何が足りていないかということも評価事例の視点に加えてほしい。その中でⅠ・Ⅱ評価があってもよい。市評価が少し甘いように感じる。（高瀬委員）
- ・ Ｖ評価のハードルが高いために、評価に表れないとなると問題である。評価のバランスを今後検討してほしい。（佐渡友委員）
- ・ 評価基準そのものについてＰＤＣＡサイクルを回し、ブラッシュアップしていくことが重要である。個票による進め方も先進的である。（佐渡友委員）
- ・ 各項目について、中期目標および中期計画を踏まえ、「本来の目標は何なのか」を意識して評価することが重要である。また、定量的に数値化できるものはおこない、客観的な評価につなげるようにしていただきたい。（高瀬委員）

4 閉会